

吉良川重伝建地区における伝統的建築物等のデザインサーベイ

高知工科大学 1050446 西森 慧
指導教員 大谷英人

1. はじめに

室戸市吉良川重要伝統的建造物群保存地区(以下、吉良川重伝建地区という)は、1997年に選定され、今年で10年目を迎える。この間、吉良川重伝建地区内の建築物等は、補助金を用いての新築・改修が進められてきた。しかし、それらの中で必ずしも重伝建地区にそぐわないもの多く見られる。それらは、重伝建地区として質の低下につながっている。今後の新築・改修について、そうした問題を起こさないためには、しっかりとした吉良川重伝建地区としての「デザインコード」を設定することが重要である。そのためには、吉良川重伝建地区における伝統的建築物等のデザインの特徴を収集・整理することが重要である。それはまた、今後の新築・改修される建築物等の設計に際してのデザイン・ソースを提供することになる。

2. 研究目的

吉良川重伝建地区における伝統的建築物等(水切り瓦、いしぐろ、格子等)のデザインサーベイを行うことを目的とする。

3. デザインサーベイの項目

デザインサーベイは以下の5つの項目に分けて整理する。

1. 伝統的建築物
2. 水切り瓦
3. いしぐろ
4. 格子
5. その他

4. 伝統的建築物

4-1. 伝統的建築物の空間構成

浜地区の建築物は町屋型で、街道に面して主屋が建てられており、巨大な屋敷はなく、比較的均等な

屋敷が連続する町並みになっている。短冊形の屋敷割で、主屋、釜屋(台所)という建物に加えて土蔵、離れ、などの付属屋も建てられている。

丘地区の建築物は農家形で、主屋が道から離れて建ち、屋敷の周囲には石垣・塀・門を設ける。主屋と釜屋が別棟になっているのは浜地区と同様である。

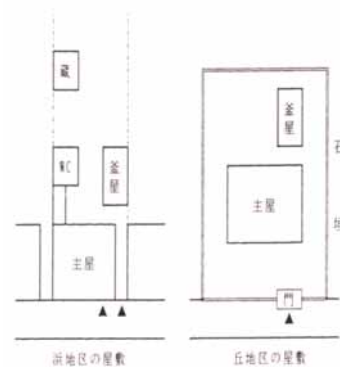


図1 屋敷の空間構成図

4-2. 主屋建築の外観

外壁の素材としては、漆喰で塗り込めたもの、漆喰を使わず下見板張りのもの、煉瓦を用いたものの3つが挙げられる。

洋風の意匠を採用したのものとして、洋風の下見板張り、屋根の妻側を見せた正面等が挙げられる。また、階数は、平屋建、つし2階建、2階建に分類される。

5. 水切り瓦

5-1. 水切り瓦の種類

水切り瓦は壁面を保護する役目とデザイン性を兼ね備えており、シンメトリックな桁高と合わせて、建物に安定感を表現している。水切り瓦には桁行きにつけられたもの、葺、妻壁に付けられたものが挙げられる。



写真1 蔵の水切瓦

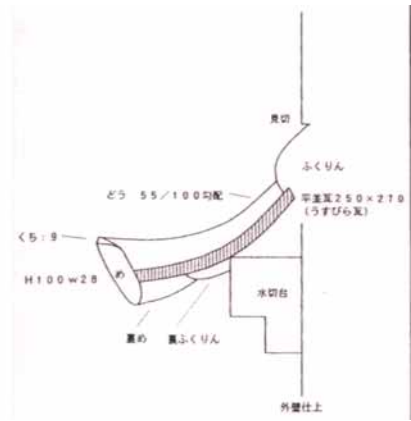


図2 水切瓦部

5-2. 水切瓦部

吉良川重伝建地区の水切瓦は、装飾に優れており、段数は2.3段と多く、水切り瓦部の「め」は丸みを帯びている。

6. いしぐろ

6-1. いしぐろの種類

いしぐろの種類は、石を積んだ「いしぐろ」、その上に瓦を積んだもの、大きな石の上に丸い玉石を積んだものに瓦が付いたものと、付いていないものの大きく4種類に分類される。

6-2. 吉良川地区に現存するいしぐろの配置図

現存するいしぐろは図3のようになっている、上の丘地区に多く見られる。



図3 吉良川地区に現存するいしぐろの配置図

6-3. 吉良川のいしぐろの代表事例

吉良川重伝建地区のいしぐろは、石垣塀としてだけでなく、内庭の仕切り壁としても利用されている。高さは1700mm、厚さは300mmくらいが多い。また、石を半割にして小口を外側に見せるなど、吉良川重伝建地区には繊細な意匠を施したものが見られる。



写真2 吉良川のいしぐろの代表事例

6-4. いしぐろの計測

A は頭の幅、B はいしぐろの傾斜を1m辺りについて測定したもの、H 全体の高さ、H1 下段の高さ、H2 が上段の高さとして計測する。

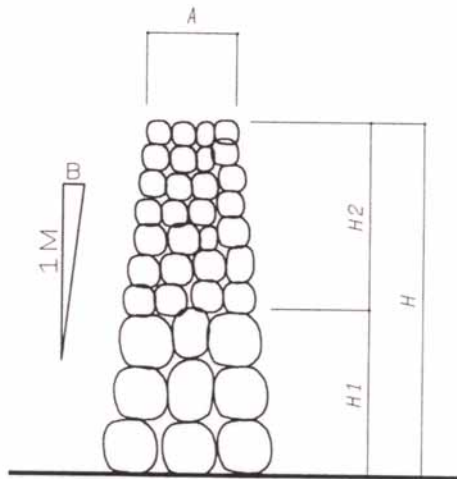


図4 いしぐろの計測

7. 格子

7-1. 格子の種類

各家はほとんど同じ形の格子を使っている。代表的

な形が写真3と写真4である。

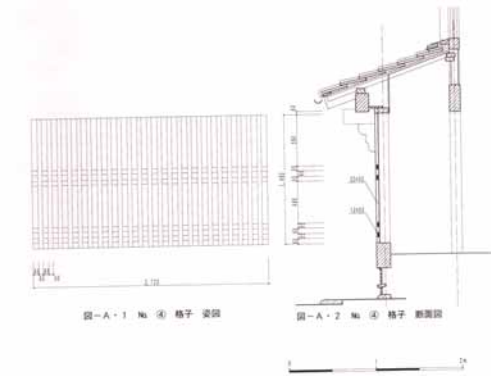


図5 格子の種類1

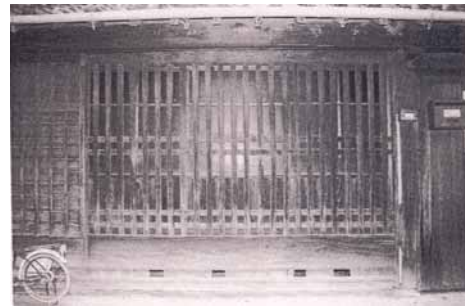


写真3 格子の種類1

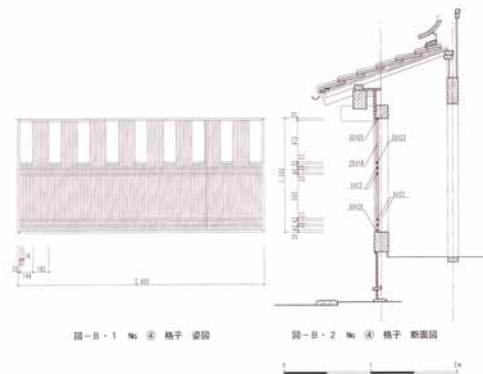


図6 格子の種類2



写真4 格子の種類2

一般的には、半間に9～15の奇数本を取り付けるとされているが、奇数本とならず、偶数本になる格子もある。

7-2. 格子の本数の比較

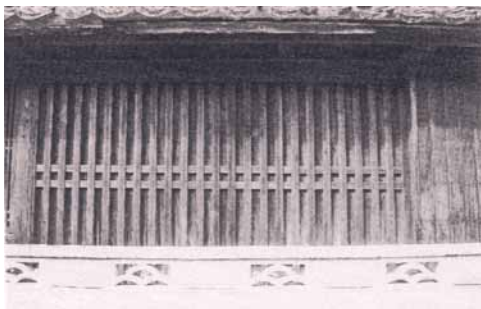


写真5 格子

表1 格子の本数の比較1

高さ (mm)	1,615
巾 (mm)	2,855
見付け (mm)	50
明き (mm)	69
見付けと明きの関係 (倍)	1.38
半間当りの本数 (本)	7



写真6 格子

表2 格子の本数の比較2

高さ (mm)	1,540
巾 (mm)	2,643
見付け (mm)	50
明き (mm)	64.8
見付けと明きの関係 (倍)	1.3
半間当りの本数 (本)	8

8. その他

8-1. 鏝絵

漆喰壁の土蔵や母屋の切妻面に施される漆喰妻飾りのことを指す。

8-2. ぶっちょう

上下開きの板で閉じれば頑丈な雨戸になる。

8-3. 持ち送り

ミセ唯一の装飾ともいえ、玄関脇の柱に取り付き、正面性を強調している。

8-4. つし2階鉄扉

つし2階に籠る空気の換気口・密集した町屋の炎症防止対策でもあるが、鉄扉にするのは物入れや倉庫的な場であることを表す。

8-5. なまこ腰瓦

風雨に弱い箇所を漆喰の剥落を防ぐため、平瓦をつけて壁面を補強する。瓦の目地をかまぼこ型の漆喰、なまこ漆喰で仕上げたもの。

8-6. 腰羽目

外壁の保護と装飾を兼ねて、腰の部分に張りまわしたもの。

8-7. 煉瓦妻壁

明治以降、赤煉瓦が国内製造されるようになり、入手しやすくなった。この頃から妻壁や袖壁に煉瓦を用いるように、赤煉瓦を建物の外観に見せるデザインは文明開化の象徴であったようだ。

8-8. 袖うだつ

軒下の袖壁を張り出す形式が多く、防火壁という意味から漆喰の塗り込め、もしくは煉瓦が多く利用されている。

8-9. 板塀

外からの視線を遮るために付けられてる。

参考文献

・室戸市教育委員会(1996)吉良川の町並み 伝統的建造物群保存対策調査報告書 発行：室戸市教育委員会